

# 実証分析の論文・レポートを書くにあたってのチェックポイント

祝迫 得夫

(Last updated: 11/23/00)

1. データセットについて丁寧に説明すること。(必要なら, 付論を別途作っても良い.)  
他の人がそのデータセットを使って論文の結果を追試するのに問題が無い程度に, 出所も含めて細かく記述すること.

2. 主なデータの基本統計量 (Basic Statistics), すなわちサンプルの平均・分散 (標準偏差)・相関係数等をまとめた表を作り, 論文の最初で簡単に議論すること.

3. 実証結果に関する表では結果の統計的な有意性を表すのに, 原則として  $t$  値ではなく標準偏差を報告すること.

( Why? See Chapter 7 of Goldberger's *Introductory Econometrics*, Harvard University Press. )

3A: 分散 (共分散行列) の計算で, 自己相関や不均一分散あるいは小標本バイアス等に関する修正を行なう推定方法を用いた場合は, どのような方法を用いたか (White, Newey and West 等) 述べておくこと.  
また, Newey - West 等を用いた場合はカーネルの幅の長さについて報告し, なぜその長さを選択したか, 実証結果がカーネルの幅の選択にどのくらい頑強かを述べること.

4. 専門学術誌を参照して, 表やグラフがどのようにまとめられているかを参考にする  
こと. 特に, 表の中の横線はできる限り避けること. また表の中に, サンプル・サイズ  
や決定係数 ( $R^2$ ) 等の基本的な情報を必ず報告しておくこと.

( 残念ながら, 先輩達の卒業論文・修士論文は良いお手本とはとてもいえない. また日本語の学術雑誌も,  
実証結果の示し方という点では問題が多い. 経済学で言えば Journal of Political Economy, ファイナンスで  
言えば Journal of Finance 等の海外の一流雑誌の論文を参考にすること. )

5. 読む人がその表だけを見てどのような分析を行なっているかがわかるくらい, 可能な限りすべての情報を, しかしできる限り簡潔に Note として表に書き添えておくこと.  
読者が本文や他の表の但し書きを参照しなければいけないような状況は, できる限り避けること. (ファイナンス関係の論文では, この点について特に注意すること.)

6. 式の推定にあたっては、なぜ、そのような定式化で推定したのかを明確に説明すること。一つの基準として、優秀だがその分野の専門家ではない人にも十分理解できる程度に、丁寧に説明すること。

7. 操作変数を用いたのなら、なぜその操作変数を用いたのかを明確に説明すること。

8. データを色々な方法でプロットし、たくさんグラフを作ってみること。データをグラフ化することで、実証分析における陥りがちな間違いやミスをかなり事前に避けることができる。また、一枚の非常に良くできたグラフは、しばしば高度な計量分析より説得的である。

9. 例えば、資本資産価格モデルを CAPM、多変量自己回帰モデルを VAR と書くくらいは問題ない。しかし、自分の書いたプログラムの中でそういう名前を使ったからといって、FOODPROD、AVGPRICES、GOVTEXPEND 等の省略した記号をレポート・論文の中で濫用しないこと。

10. TSP や S-Plus といった統計ソフトのアウトプット・ファイルを、そのままレポートにくっつけて提出しないこと！